越前市におけるブラジル人児童への学習支援

福井県立武生高等学校

01　問い

ブラジル人児童に補助教材での学習支援を行うことで児童の国語の学習においてどのような効果があるか

02　仮説

・学習に積極的に取り組むきっかけづくりになるのではないか

・日本人児童とのコミュニケーションの場が増え、その能力を向上できるのではないか

03　方法

01　現状の把握

02　支援のターゲットを絞る

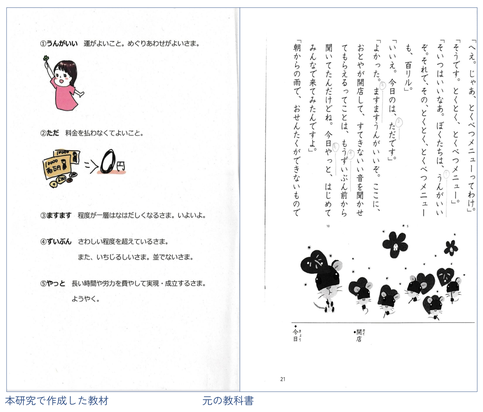
03　教材の形式を考える

04　教材（試作品）の作成

①実際に教科書を読み、意味がわかりにくいと思うところに印をつける
②選んだ言葉を書き出す
③選んだ単語の説明を考える（小学館の国語辞典を参考）
④言葉のみでの説明では分かりにくい単語を絵で表現
⑤単語とその説明を区別
⑥授業や家庭学習で使用しやすい**冊子形式**で補助教材を作成

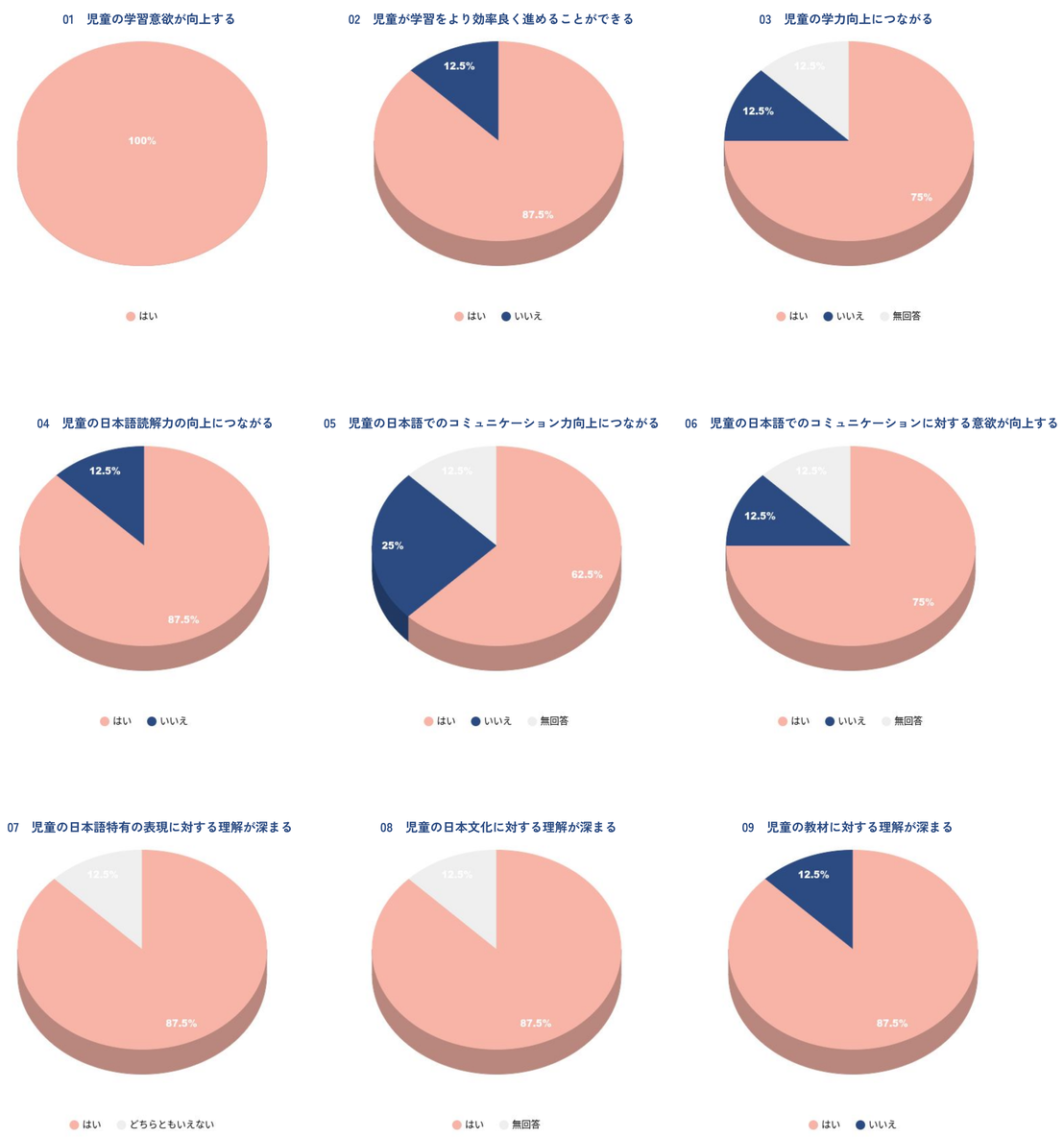
05　試作品の配布

06　教材を改善・アンケートと共に配布・回収



本研究で作成した教材　　元の教科書

04　アンケート結果



05　考察

『はい』の占める割合が
①**80%以上**だったもの
　　→効果がある可能性が高い
②**80%未満**だったもの
　　→効果がある可能性が①と比較すると低いと評価されたと考えて考察を進める

（・：アンケート中の感想から考えた理由、Ⓜ：自分たちで考えた理由）

①『はい』の占める割合が80%以上

◎『はい』の割合が高くなった理由を考察する

01　児童の学習意欲が向上する
・特別な教材を与えられるだけで学習への意欲喚起につながる
・学習意欲が高い子の個別に学習を進める際の支えとなってくれそう

02　児童が学習をより効率良く進めることができる
・言葉の意味の説明が改善された
・イラストとQRコードで分かりやすくなった
・単語など言葉を区切ってあり分かりやすい
・学習意欲が高い子の個別に学習を進める際の支えとなってくれそう

04　児童の日本語読解力の向上につながる
・言葉の意味の説明が改善された
・単語など言葉を区切ってあり分かりやすい

07　児童の日本語特有の表現に対する理解が深まる
・言葉の意味の説明が改善された
・イラストとQRコードで分かりやすくなった
・単語など言葉を区切ってあり分かりやすい

08　児童の日本文化に対する理解が深まる
・言葉の意味の説明が改善された
・イラストとQRコードで分かりやすくなった

09　児童の教材に対する理解が深まる
・言葉の意味の説明が改善された
・イラストとQRコードで分かりやすくなった
・単語など言葉を区切ってあり分かりやすい
・児童の立場になって考えられている

②『はい』の占める割合が80%未満

◎『はい』の割合が低くなった原因を考察する

03　児童の学力向上につながる
Ⓜこの教材は日本語の理解を深めることを目的としたものであり、学力の向上には直接的に関係しないから。

06　児童の日本語でのコミュニケーションに対する意欲が向上する
・文章の何が主語なのか分かると良い
Ⓜしかし・教材を通してコミュニケーションの場を設定することでコミュニケーション力向上につながる

05　児童の日本語でのコミュニケーション力向上につながる
・文章の何が主語なのか分かると良い
Ⓜしかし・教材を通してコミュニケーションの場を設定することでコミュニケーション力向上につながる

06　結果

学習意欲・学習効率・日本語読解力の向上や、日本語特有の表現・日本文化・教材に対する理解が深まるといった効果が得られると考えられる

学力･日本語でのコミュニケーションに対する意欲･日本　語でのコミュニケーション力の向上も期待できるが、改善　の余地がある

07　展望

〇課題
・ 主語と動詞、名詞と助詞などをどうやって区別して説明するか
・コミュニケーションに対する壁をさらに低くするにはどうしたら良いか

〇今後
・実際に教材を使っていただく　　・他学年・他教科の教材の作成